

千葉運転区支部

第10回

定期大会開催

闘いの伝統を担う 若き新執行部を選出

十二月五日、千葉運転区支部は、千葉市弁天町会館において、第十回支部定期大会を四〇名の結集をもって開催した。「自己申告書」の提出による出向攻撃の強まり、職場規律をもつてするしめつけ賃金カット攻撃のなかで、本大会をもつて新執行部体制をつくりあげ、反撃に立ちあがることを決定した。

大会は、押垂君の司会で始まり、議長に影山君を選出して進められた。

永田支部長のあいさつ、中野委員長の来賓のあいさつとも、動労千葉が第十二回定期大会で組織財政基盤の確立を打ち出し、出向攻撃を粉砕、解雇、清算事業団、強制配転された仲間の原職奪還を立ちとらなければならぬこと、そして組合員「一人ひとりが活動家になつてたかいかいぬかなければならぬことあいさつされた。

討論の中では、「職場が暗い、こうした時期に支部長を職場から出すべきではない」「本部の方針は反対ではないのか」という意見や、「まず自分が立ちあがるべきではないのか。人に頼っていたのでは、この先やっていけない」など新体制についての意見が活発に出された。

また、清算事業団の方からは、「資格取得」の問題について、資格を取ったら再就職を強制されるのではないかと。本部は最悪の場合も考えてやっていくべきではないのか等の意見が出された。清算事業団の仲間を奪還するためにはストライキをもつてもたまたかうべきではないのかという意見も出された。

これに対する本部の答弁は、現場にいる者が執行部となり、現場の声を反映させてやっついていかなければならないのではないかと。本部が現場のことを考えていないことではないなど、これからの組織体制についての考えが出された。

大会は最後に、繁沢支部長をはじめとする新執行体制を選出した。新執行体制は、三役をはじめとして半数が二十代であり、全く新しい体制がつけられた。



日刊 動労千葉

87. 12. 10

No. 2719

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

新体制は、青年部の役員経験が少ない者をはじめ、今まであまり経験がなかった者がほとんどです。千葉運転区支部は、分割・民営化阻止の二波のストライキにおいて七名の首を切られ、五名の仲間が清算事業団におくられた。そのため執行部の全員が解雇され、清算事業団に入れられた。われわれは、こうした人たちの怒りや苦しみを受けて今まで以上のたかいかいを作りあげていかななくてはならない。

千葉運転区支部は、動労千葉の最先頭で、出向攻撃粉砕、原職奪還、組織財政基盤の確立のため全力でたかいかいぬくとを決意する。

最後に、新支部長の団結ガンバローをもって大会は成功のうちに終了した。共にたたかおう。

執行委員長	繁沢 敬一
副執行委員長	永田 雅章
書記長	大野 茂
執行委員	押垂 正彦
	仁藤 久秋
	岩瀬 孝一
	吉田 英樹
	金浪 兼治
	久保庭 幸平
	五十嵐 和夫
	鈴木 進
	中村 仁
	角田 清
	江口 治男
	相原 照二
	林利明
	後藤 俊哉
	多田 勝美
	若林 太海
会計監査	